

開発力を併せ持つ マグネシウム加工の 先駆者



全面マグネシウム合金で開発した
SONY「VAIO」の初期モデル



一個流し生産用ショットブラスト

株式会社三輝ブラスト

時流に沿った小ロット対応機 「超小型回転式ブラスト」

日本経済が右肩上がりだった頃、加工業において仕掛り品の在庫発生は、ある程度「止むを得ない」という認識だった。しかし近年の不況を顧みると、余剰を抱えることは大きなリスクを負うことになりかねない。

三輝ブラストは、鑄造された製造品の粗を取るバリ取り等、金属加工業を主とする企業であったが、小ロットへの対応を可能にした新製品「超小型回転式ブラスト」の実用化に成功したことで新たな転機を迎えることになる。

「新製品のイメージはできていたのですが、具現化するのに社内だけではどうしても限界があったんですね。しかし、必要とされる確信があったので、不足分を補うためにはどうするべきかを考えました」と佐藤輝明専務は話す。開発と販路の確保は、立命館大学との連携や人脈等、外

部からの力を積極的に取り入れたことが成功の一因であり、同社の柔軟性と吸引力の賜物と言えるだろう。

「技術と経験を基にソフトを強化し、知識と開発力によってハードの創出を続ける。それにより、新たな強みを活かしたビジネスモデルを構築することを目指しています」。

業界に先駆けて マグネシウム成形に着手

マグネシウム加工に取り組み始めたのは平成8年のこと。当時、マグネシウムは「軽くて強いが爆発しやすく危険な素材」として一般化には不向きととらえられていた。

その頃を振り返って佐藤専務は言う。「魅力は感じていましたが、正直なところ冒険でしたよ」。

しかしこの「冒険」が功を奏した。危険性の除去を最優先した結果、粉塵爆発を防止する「湿式集塵機」の開発に成功。業界内でのマグネシウム普及に大きな影響を与えたのだ。「怖かったですね」と振り返りながらも「あの頃の気持ちがあるからこそ、安全や環境に対しての意識は常に徹底して持ち続けています」と語る。

技術とノウハウ、 そして心構えを輸出

経済全体が縮小傾向にある中で、同社が持つ技術を発揮しきれない現状にあることは否定できない。しかし佐藤専務に悲壮感はない。

「日本だけを見ればそうかもしれませんが。実際、国内では研究開発の比重が増してきています。視野を広げれば、私たちのノウハウを活かせる土壌はまだあると思っています」。すでに同社は中国への進出を果たしているが、現地での加工業は日本を上回るほどの勢いを見せているというのだ。

「技術の輸出自体はそれほど難し

くありません。これからは当社の理念や精神性の浸透にも力を入れ、品質だけではなく現地従業員の教育等の社会貢献も含めた、そのエリア一番の企業となるべく動き出しているとこです」。

株式会社三輝ブラスト

住所／〒581-0812
大阪府八尾市山賀町6-82-2
設立／昭和41年4月
資本金／2,300万円
従業員／85名（平成21年1月現在）
TEL／072-928-0212
FAX／072-928-0213

Company Profile

ISO 9001
ISO 14001

大阪
20

<http://www.sankiblast.co.jp/>



佐藤武幸さん
代表取締役



佐藤輝明さん
代表取締役専務

主な事業内容

マグネシウム成形品・アルミダイカスト製品の仕上加工・機械加工等